

今号は紙面の都合上、到着が遅れましたことをお詫び申し上げます。

編集部

自交総連東京

全国自動車交通労働組合総連合東京地方連合会機関紙

10/1
(2026年)

No. 1213

発行＝全国自動車交通労働組合総連合
東京地方連合会(自交総連東京地連)
〒110-0003 東京都台東区根岸4-11-10
電話3871-4115(代表) FAX3871-4120

発行人＝林 悦夫

1部50円 郵送料別
(毎月1日の1回発行)
郵便振替口座 00110-2-66026番
購読料 前納制 1,500円
昭和51年11月5日第三種郵便物認可

全
都
協
共
同
版
教

見える運動で組織拡大のとき

26年度を新体制でスタート

第153回
定期大会

「ライドシェア全面解禁阻止 組織の強化・拡大で労働条件改善を」をスローガンに掲げた第153回定期大会は9月29日、北とぴあにて37組合143人(来賓・報道を含む)が参加。すべての議案を採択し、新たな体制がスタートしました。

主催者を代表して 参加したみなさんの こうとあいさつ。
徳永委員長が「東京 英知を結集し新たな 来賓あいさつでは、地連は80周年を迎え 時代を切り開いてい 自交総連本部高城書

記長、東京地評、首都圏交運共闘会議、関係弁護団、日本共産党と続き、飛鳥裁判では東京地連のなかが力があわせてたたかった成果や、第二次高市改造内閣によるライドシェア解禁のうごきが活発化する恐れがあるなど、入選2単組へ賞状を授与

午後には、機関紙



発言した中央委員・代議員のなかま(上＝6人)

議案に賛成として挙手



新役員に選出された執行部＝写真上
今期で退任となった徳永、木俣、島田氏へ感謝状を贈呈＝左

コンクルールの表彰が行われ、徳永委員長から入選となった高砂自動車労組と日本交通労組へ賞状が手渡されました。
続いて林書記長が議案を提案。26年度運動方針に関する件、会計報告並びに監査報告、予算に関する件、秋季年末闘争方針に関する件を提案。「持続可能な産業としていくために、に苦悩に寄り添い、オルグ活動を通して見える運動で組織拡大を展開していく」と述べました。
全体討論では、多岐にわたる発言があり、林書記長は「自交総連の価値を輝かせ新しいなかまを迎え入れていこう」と答弁しました。

新役員体制を選出

議案採決では、全ての議案が採択され、ストライキ権確立に関する件では95・77%でスト権が確立。新年度役員選出に関する件では新役員体制が決定し、退任・新任のあいさつ後、特別決議と大会宣言を採択し、高城新執行委員長が団結がんばろうで新年度がスタートしました。

来賓・メッセージ

自交総連・高城書記長／東京地評・井澤事務局長／首都圏交運共闘会議・上村副議長／東京南部法律事務所・永井弁護士／東京東部法律事務所・船尾弁護士／江東総合法律事務所・大瀧弁護士／日本共産党・山添参議院議員・せいの恵子都議会議員

新執行部紹介

執行委員長

高城 政利(グリーンキャブ労組)

副執行委員長

坪倉 秀樹(帝都葛飾交通労組)

中野 健治(高砂自動車労組)

書記長

林 悦夫(日本交通労組)

専従執行委員

藤井 夢門(日本交通労組)

執行委員

高橋 昭裕(日の丸自動車交通労組)

笹野 光昌(日本交通労組)

月村 隆浩(宮園労組)

金子 博(グリーンキャブ労組)

伊藤 悟(小田急交通労組)

山本 尚二(天龍交通労組)

秋山 芳晴(東京個人タクシー労組)

会計監査

中村 征嗣(すばる交通労組)

森 敬治(吉祥寺交通労組)

鈴木 俊哉(小田急交通労組)

退任役員

徳永 昌司(グリーンキャブ労組)

木俣 透(帝都日新交通労組)

島田 亮吉(グリーンキャブ労組)

吉江 靖行(東都自動車労組)

今定期大会で徳永、木俣、島田、吉江の4人が退任致しました。在任中のご厚意にお礼申し上げますとともに、ここにご報告させていただきます。